

対照法によるレトリックの相乗効果

ー単純な構文構造を用いて複雑な表現効果を生み出すー

小松原 哲太

神戸大学

komatsubara.tetsuta@gmail.com

要旨：文彩は、言語の通常の用法から巧みに逸脱するレトリックの技術であり、形式的な逸脱を含む文彩はスキームとよばれている。本稿はスキームの1つである対照法に注目し、対照法が他の文彩との組み合わせによって相乗効果を生み出すことを明らかにした。本稿で取りあげた事例の分析結果から、対照法は少なくとも、堆積法、類義区別、隠喩、直喩、逆説の5つの文彩と共起することが分かった。対照法とは語句を対照することで概念を対照する文彩である。対照法に用いられる構文構造は単純であるが、構文の共通構造によって意味の対照性を示す汎用性の高い機能を備えている。対照法の基本機能は形式を整えることによって意味を強めることであり、この機能がしばしば他の文彩の機能を強化する。本稿の考察から、意味の文彩は形式の文彩との組み合わせによって相乗効果を発揮するということが示唆される。

キーワード：対照法、構文、効果、スキーム、文彩、レトリック

1. はじめに

言語は慣習による記号の体系である。ある時代の、ある地域の、ある社会集団には、言語の慣習が存在する。この慣習から外れると、私たちはそれをたちどころに感知する。このような慣習からの逸脱は、時代遅れ、よそ者、非文法的、など、たいていの場合、話者に対する否定的な印象をもたらす。しかし、そのなかに「技巧的に (artfully)」(Corbett and Connors 1999: 379) 慣習から外れる方法がある。これが**文彩** (figurative language) である。文彩とは、「言語表現の通常の方法から逸脱する」(ibid.) 技術の総称であり、隠喩をはじめとする文彩はレトリック研究で注目を集めてきた。目新しい文彩を用いるのは、発信者にそれなりの理由があつてのことであり、問題となる事柄に関する発信者の捉え方を表出する(Meyer 2017: 145)。佐藤 (1978: 45) は、これに関して文彩(ないしは言葉の彩)

は「新しい認識にかたちを与えるもの」であると述べている。近年の文彩研究の展開は認知言語学の影響を受けたものが少なくないが、Lakoff and Johnson (1980) の隠喩 (metaphor) 研究は言語科学における文彩の位置づけを大きく変え、文彩は言語能力と言語使用の根幹にかかわるものだと考えられている (Dancygier and Sweetser 2014)。

文彩は大きく分けると、逸脱が言語の表現と内容のいずれに関与するかによって2つに区分される (Leech 1969: 74)。第1にトロープ (trope) は表現内容に関わり、第2にスキーム (scheme) は表現形式に関わる (*ibid.*)。現在の文彩を論じるレトリック研究の関心は、スキームよりトロープに向けられている。圧倒的な質、量の研究が蓄積されてきた隠喩 (Kövecses 2010, 鍋島 2016) をはじめ、換喩 (metonymy) (Panther and Radden 1999, Littlemore 2015)、直喩 (simile) (Israel 2004, 小松原・田丸 2019)、提喩 (synecdoche) (Seto 1999, 小松原 2018)、反語 (irony) (Wilson and Sperber 1992, Burgers, Van Mulken, and Schellens 2011) は、すべて意味の変容にかかわるトロープだと言える。歴史的にみるとトロープとスキームの分類は一定だというわけではない。しかし、よくスキームとして挙げられる対照法 (antithesis)、平行法 (parallelism)、交差配列法 (chiasmus) などは、修辞学のテキストではしばしば言及されるにもかかわらず、これらのスキームに特化してその言語的な特性を論じる論文や書籍はわずかであり、文彩研究のなかでスキームはトロープに比べて注目されてこなかった。

本稿で考察するのは、スキームの1つである対照法である。対照法とは、語句を対照することで効果的に概念を対照する表現 (Wales 2014: 25) であり、対照法の形式的な特徴は、単純な構文構造を反復することで対比を生み出す点にある。対照法は、構文に関係するため、言語学における対比を論じる文法研究と密接に関わっている。しかし言語学ではこの修辞学用語はそれほど知られておらず、言語現象としても十分認知されているとは言えない。その一方で、対照法は修辞学の文彩リストには必ずといっていいほど掲載されている主要な文彩である (*e.g.*, 野内 2002, Cockcroft and Cockcroft 2014)。ただし、対照法が担うレトリックとしての機能を掘り下げて論述する研究は、発見的認識を表現する文彩の例として対照法を考察する佐藤 (1981: Ch. 4)、修辞構造理論の記述概念として対照法を援用する Mann and Thompson (1987)、科学のレトリックにおいて対照法が隠喩に劣らない重要性をもつことを指摘する Fahnestock (1999: Ch. 2) など、ごく少数にとどまっている。以上のように、言語学でも修辞学でも、対照法の体系的な研究はなされていない。

それでは、(修辞学用語にはよくあることだが) 用語だけがよく知られていて、

具体例はごくまれにしか観察できないという理由から、研究の動機づけが不足しているのかといえそうではないように思われる。本稿で挙げる例から示されるように、対照法はさまざまなジャンルできわめて広く使用される文彩であり、身の回りの言葉のなかにも対照法は容易に見つかる。また対照法は、単独で広く使用されているばかりでなく、他の文彩ともよく共起する。複数のレトリックが共起することで相乗効果を生み出すことの重要性は先行研究で指摘されている（野内 2007: 11、山梨 2012: Ch. 5、Harris et al. 2018: 160）が、具体的には、どのような組み合わせで用いられるのかは体系的には解明されていない。対照法による相乗効果は、レトリックの共起に関する研究に理論的示唆を与え得る現象であるように思われるが、これまで深くは研究されていない。

以上のように、対照法は、これまで具体的な調査はほとんど行われていない文彩であるが、レトリック（すなわち、言葉の受信者の思考、感情、行動に影響を与える言語使用）の全貌を明らかにする上で見逃すことのできない重要性をもっている。特に、レトリックの相乗効果の問題は、対照法の考察を通じて理論的な示唆が得られる可能性がある。本稿では、対照法の形式（2 節）と意味（3 節）の特性を具体例にもとづいて記述する。対照法と組み合わせて用いられる文彩の範囲を、複合的な文彩の事例を観察することによって検討し（4 節）、ある文彩を対照法と組み合わせることによって、レトリックとしての効果が強まるメカニズムについて考察する（5 節）。

2. 対照法の形式

スキームとしての対照法の形式的逸脱を特徴づけているのは構造の「過剰な規則性」（Leech 1969: 62）である。同じく対照性に深く関係する反語や対義結合などのトロープと異なり、対照法には意味的な矛盾はない（佐藤・佐々木・松尾 2006: 461）。(1) は「A は B」という構造を反復して、「見た目」と「頭脳」、「子供」と「大人」を対比する対照法の例である（以下、本稿では対照法によって対比される表現に、日本語の場合は下線、英語の場合はイタリックの強調を施す）。

(1) たった一つの真実見抜く

見た目は子供、頭脳は大人

その名は、名探偵コナン！

（青山剛昌（原作）アニメ『名探偵コナン』読売テレビ／トムス・エンタテインメント, 1996 年）

対照法は形式の均衡性を用いる文彩であり、ある事柄の特定の側面を強調する上で役立つ。対照法は (2) から (7) のような格言やことわざの基本形でもあり、(8) から (10) のような広告の表現にもよく利用される (cf. 佐藤 1981: 103-104)。

- (2) *The older one grows, the more one learns.* [老いるほど、多くを学ぶ。]
- (3) *The nearer the church, the farther from God.* [教会に近いほど、神からは遠い。]
- (4) *The more haste, the less speed.* [急がば回れ。] (山梨 2009: 261)
- (5) 頭隠して尻隠さず
- (6) 木を見て森を見ず
- (7) 仏作って魂入れず (土屋 2020: 67)

以下は、図 1 のようなマナー啓発のための電車内ポスターに用いられたキャッチコピーの例であるが、ここでは対照法が隠喩（例えば「想いをぶつけて」）との組み合わせで用いられている。このように、対照法は他の文彩と組み合わせることで、形式や意味を際立たせるために使用することができる（対照法と隠喩の結合については 4.3 節で論じる）。

- (8) 想いをぶつけても。荷物はぶつけない。
- (9) チームワークは固めても。ドア付近では固まらない。
- (10) 心は乱れても。列は乱さない。

（「マナー啓発活動」『阪急電鉄』公式ウェブサイト；2024 年 6 月 20 日閲覧）

「A して B しない」「A ではなく B である」「A であっても B ではない」「A1 は A2 でも B1 は B2」のように、2 つの概念を並列して表現することが対照法の特徴であるが、まったく無関係なものを比較することはできない。対照法で比較するのは、「多くの点で同じであり、いくつかの点で異なると認識される」(Mann and Thompson 1987: 8) ような 2 つの概念である。反復される共通の構文構造は、比較される事柄の共通点を表現する。例えば (6) で反復される「X を見る」という共通の構文構造は、「木」と「森」がともに人間が見る対象であるということが比較の基準となる共通点であり、その見方の違いが注目すべき差異であることを示している。



図1 「マナー啓発活動」『阪急電鉄』公式ウェブサイトより引用

(1) や (2) のように接続表現を用いない場合もあるが、多くの対照法の例では (5) の「て」や (8) の「ても」のような、対照接続表現 (antithetical conjunct) を伴う (Wales 2014: 25)。英語の対照接続表現の例としては *but, on the contrary, by comparison, on the other hand* (Wales 2014: 25), *rather than, instead of, however, yet, not, more than, without* (Mann and Thompson 1987: 18) などがある。これらの接続表現は、対照法において比較される2つの事柄のうちのどちらに重点が置かれているか (3節参照) を明示する文法形式であると言える。

接続表現の有無にかかわらず、対照法に用いられる共通構造はたいてい、**平行法 (parallelism)** (2.1節)か**交差配列法 (chiasmus)** (2.2節)の形式をとる (Mayoral 2001: 28)。

2.1. 平行法

同じ構造パターンの反復を平行法という (Wales 2014: 301-302)。本稿でこれまで挙げた対照法の例はすべて、平行法を用いたものである。平行法は受信者の注

意を引きつけ、同じ統語的位置に置かれた同じ文法カテゴリーの語句の差異を際立たせる (Fahnestock 1999: 49-50, Mayoral 2001: 28)。例えば (11) (12) (13) は同じ比較の言い換えだと言えるが、この順に対照性は強くなる。その理由は (11) には平行法が用いられておらず、(12) にはゆるやかな平行法と対義語の対が用いられており、(13) では *you have A-thing to B* という明確な平行法が対義語の比較を明示しているからだと考えられる。

(11) You have a lot to gain by winning, and if you lose, it won't cost you anything.

(12) You have everything to win, and you will lose nothing.

(13) You have everything to win and nothing to lose.

(Fahnestock 1999: 49-50)

2.2. 交差配列法

AB、BA のように、語句を反対の順序でくり返す表現 (Wales 2014: 54) を交差配列法という。交差配列法は、順序だけが異なる同じ語句の反復であるという点で、共通の概念をくり返し表現する構造をもつ。交差配列法を用いた対照法としては (14) (15) が挙げられる。(14) では、*ask what A can do for B* という構造が、(15) では「とは A を欠いた B である」という構造が、A と B を入れ替えた形で反復されている。

(14) Ask not what *your country* can do for *you*, but what *you* can do for *your country*.

[国が自分に何をしてくれるか問うのではなく、自分が国に何ができるかを問いなさい。]

(John F. Kennedy, Inaugural Address, January 20, 1961; Leith 2011: 282)

(15) 機知とは三段論法を欠いた思想であり、彼らの所謂「思想」とは思想を欠いた三段論法である。(芥川龍之介「侏儒の言葉」『芥川龍之介全集 7』: 151-266, p.196, 筑摩書房, 1989 年; 佐藤 1987: 243)

交差配列法の特徴は、A と B よりも、AB と BA の対照性が際立つという点にある。例えば (16) はウルトラブックスが他の製品と同じようにノート PC というカテゴリーに入るとのことと、同じノート PC というカテゴリーでもウルトラブックスと他の製品には差があることを強調している。(17) は幅広い知識を身につけることと、何かの専門家になることの対照性を、共通の語句と対称的な語順によって表現している。

- (16) *Ultrabooks are laptops after all, but not all laptops are ultrabooks.* [ウルトラブックスも結局はノート PC、しかしすべてのノート PC がウルトラブックスだというわけじゃない。] (Harris et al. 2018: 161)
- (17) Try to learn *something* about *everything* and *everything* about *something*. [すべてのことについて何かしら、また何かについてはすべてを学ぶよう努めよ。] (Thomas Huxley; Brainy Quote; 2024 年 6 月 20 日閲覧)

3. 対照法の意味

対照的な概念を並列する表現 (Corbett and Connors 1999: 382) である対照法は、スキームの 1 つとされ、その形式によって規定されてきた。2 節で述べたように、対照法には平行法、交差配列法などの過剰な規則性をもった構造が用いられるという形式的な特徴をもつ。しかし表現形式に逸脱があれば、それにともなって意味にも逸脱が生まれる (Leech1969:75) ため、対照法は意味にも強い影響を与える。

- (18) *That's one small step for a man, one giant leap for mankind.* [一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ。]
(Neil Armstrong, as he stepped on the moon, July 20, 1969;
YouTube@abcownedtelevisionstations, 2019 年 7 月 18 日; 2024 年 6 月 20 日
閲覧)

(18) は人類で初めて月面着陸を果たしたニール・アームストロング船長による名句である。並列的な構文構造によって *small/giant, step/leap, man/mankind* という 3 つの語の対がそれぞれ対照され、それによって、月へ最初の一步を踏み出したことに関する 2 つの見方、すなわち第 1 に、一人の男 (つまりアームストロング) にとっては小さな一歩であるという見方、第 2 に、全人類にとっては大きな飛躍であるという見方が対照されている。アームストロングの個人的な経験は、人類の偉業を強調するために引き合いに出されているにすぎない。同じ事柄に対する 2 つの見方を分離し、一方との比較を通じて他方の意義が強調される。

対照法は、伝えたい内容を他の事柄と比較する文彩である。他の概念と比較する利点は、着眼点を明確にし、特徴を相対化できることである。逆に言えば、そのような明確化、相対化が必要ない場合には、対照法を使う必然性はない。対照法は、ある表現の意味の輪郭が不明確である、注目したい側面が一般的には認識されにくいなど、伝えたい内容が漠然としている際に使用される。例えば (18) に

おける「人類の飛躍」は、これだけではあまりにも話のスケールが大きく、漠然としている。これが「小さな一歩」と表裏一体であることを対照法によって示すことで、人類の飛躍が身体行為と結びつき、具体化される。

対照法で比較される A と B のうち、伝えたいのは一方であり、もう一方は伝えたいことを際立たせるために引き合いに出されるにすぎない。antithesis には「対照法」という意味のほかに「アンチテーゼ」という意味があるが、アンチテーゼとはテーゼに対する反対命題を意味する。Mann and Thompson (1987: 8) によれば、対照法で引き合いに出されるのはテーゼであり、発信者の目的は、テーゼがアンチテーゼと一致しないこと (incompatibility) を示すことで、受信者のアンチテーゼへの関心を強める¹。反対のものを提示すると、主要なアイデアがより際立つため、対照法は述べたいことを強調する手段になる (Quinn and Rathbun 1996: 13-14)。例えば (18) のテーゼは、アームストロング船長の経験を小さな一歩であるとみなす見方であり、これに対するアンチテーゼは、これを大きな飛躍であるとみなす見方である。(18) は、テーゼの理解を通じてアンチテーゼに際立ちを与えている。

本稿では、この対照法の特徴を、隠喩の目標領域 (target domain) と起点領域 (source domain) (Lakoff 1993) になぞらえて、対照法の伝達目的となっている概念 (アンチテーゼ) を目標極 (target pole)、目標極を伝達するための引き合いに出されている概念 (テーゼ) を起点極 (source pole) と呼ぶ。対照法は、起点極との比較を通じて目標極を際立たせる文彩であると言える。例えば (19) は、「私」(前田敦子) が嫌いな人がいるということを強調したいわけではない。これを起点極とした対照法によって、女性アイドルグループの「AKB」を嫌いにならないでほしいという、それ自体は漠然とした「お願い」にすぎない目標極が、前田敦子の自尊心をかけた依頼として強調される。

(19) もちろん、私のことが、嫌いな方もいると思います。ひとつだけお願い

¹ Mann and Thompson (1987) の対照法におけるアンチテーゼとテーゼの考察は、修辞構造理論 (Rhetorical Structure Theory; RST) (Mann and Thompson 1988) の核項 (nucleus) と付随項 (satellite) の概念を背景にしている。あるテキストにおいて、核項とは発信者の主な目的を表す部分であり、付随項とはその補足材料となる部分である (Mann and Thompson 1987: 3)。修辞構造理論は、修辞学とは直接的には関係づけられていない (Green 2023: 4) が、対照法をテキスト全体の目的と結びつけて論じている点で興味深い。

があります。私のことは嫌いでも、AKBのことは嫌いにならないでください。

(前田敦子「AKB48 第3回選抜総選挙 2011」スピーチ,
YouTube@xanxsu1, 2011年6月14日; 2024年6月20日閲覧)

目標極となる概念だけを表現しても説得力がない場合、起点極を巧みに選択することで、対照法が「感じかたの組み替え」(佐藤 1981: 124)の手段になることがある。(20)は、臆病だから飛行機に乗るのがこわい作家が屁理屈をつける(*ibid.*)例である。対照法を取り払った(21)では、飛行機に乗るのがこわくない読者にとっては一般的な事実を述べているにすぎず、その危険性は漠然としか伝わらないと考えられる。飛行機を新幹線と対照的なものとして位置づけるのはフェアでないとも言えるが、これを平行法の形式に入れることで対照法に仕立て、飛行機の危険に際立ちを与えている。

(20) 時速二百キロで走っている新幹線が故障すると、次第にスピードがのろくなり、最後はレールの上で、じわーっと停ってしまう。飛行機が空を飛んでいる最中に故障した場合、次第にスピードがのろくなり、最後には空中でじわーっと停ってしまうことはない。この場合は落ちるのである。(筒井康隆『狂気の沙汰も金次第』; 佐藤 1981: 124)

(21) 飛行機が空を飛んでいる最中に故障した場合、落ちるのである。

形式的に対照性が表現されていても、その内容に意味的な対照性がなければ、一方が他方を際立たせる対照法の効果は期待できない。修辞学の古典的な著作である『アレクサンドロスに贈る弁論術』(*Rhetorica ad Alexsandrum*)においては、形式の面と意味の面の両方で対照性があるのが完全な対照法であるとされている(アリストテレス 1968: Ch. 26)。意味的な対照性をもつ対照法の典型例としては、例えば(18)の *small/giant* のように、対義語 (*antonym*) を用いる場合が挙げられる (Wales 2014: 25)。

何が対照的な言葉であるかについての認識は、言語のなかで慣習化している。例えば「生の反対は？」と問われると、人は自動的に「死」という答えが浮かぶ(佐藤 1981: 122-123)。対照法の効果は、起点極によって生み出された語彙的な予測 (*expectation*) を目標極が裏切る場合には失われることがある (Fahnestock 1999: 47; Green 2023: 3)。例えば(22)では *wise/foolish* の対が、*fail/succeed* の対とともに対照性をもつものに対して、(23)では *fail* からの予測が裏切られるため、

対照法として不完全な印象を与える。(24)はこの予測を逆手に取ったユーモアで、「Twitter」と対照的な SNS プラットフォームである Instagram を強く予測させる平行法の位置にあえて「島根県」を入れて裏切ることで、対照法を破綻させている（この比較が Twitter のモチーフである鳥から「鳥取」への連想にもとづいている可能性はある）。

(22) The wise fail and the foolish succeed.

(23) The wise fail and the foolish do much better.

(Fahnestock 1999: 47)

(24) どっちかって言うと、どっちかって言うとその一、面白さとか、ユーモアセンスみたいなやつが評価されやすいのが、Twitterですね。でそれとは逆に、主に写真とかを投稿して、どっちかっていうと綺麗だな美しいなっていうのが評価されやすいのが、島根県ですね。どっちが島根だっけってなる人多いんで。こっちが島根です、覚えて帰ってください。え、逆でしたっけ？え、こっちが島根？こっちが Twitter？鳥取は？お願いしますー。」

(サツマカワ RPG「漫談」YouTube@yesrpg3888, 2020 年 3 月 19 日; 2024 年 6 月 20 日閲覧)

(24) は、対照法として機能することを狙いとした表現ではないが、共通構造からいかに強く対照性が予測されるかを示している。共通構造による予測を利用することで、慣習化された語句の対照性を強めるだけでなく、新しい対照性を作り出すこともできる (cf. 瀬戸・宮畑・小倉 2022: 288)。例えば (18) の step/leap はともに移動を表す名詞であり、man/mankind はともに人間を表す名詞であるため、これらは対義語とは言えないが、対照法によって 2 つの概念が分離され、その差異に際立ちが与えられている。(25) では「書きちらす」と「書かする」という、文を書くという点では共通している述語を、対照法によって概念的に分離し、それぞれに対照的な評価（「よし」「うるさし」）を与えている。(26) は食べものとしては肉と魚といったゆるやかな対照性しか持たない「ブタ」と「シャケ」の生活様態を対照法で表現することで、この 2 つが「逆」であることを説得的に示している。

(25) 手のわるき人の、はばかりず文（ふみ）書きちらすは、よし。見ぐるしとて、人に書かするは、うるさし。[筆で書く文字の下手な人が、遠慮な

く手紙をどんどん書くのは、よい。みっともないと思って、他人に書かせるのは、いやみなものだ。]

(吉田兼好(著) 西尾実・安良岡康作(校注)「第三十五段」『新訂 徒然草』: 70, 岩波書店, 1928 年; 佐藤 1981: 103)

- (26) [いつもと逆の行動をして弱気な自分を変えようとしていた F・F が、昼食に何を食べるか迷っていた際に]

配膳係のおばちゃん: プタの逆はシャケだぜ。プタはゴロゴロした生活だがシャケは流れに逆らって川をのぼるッ!

F・F: 気に入ったーッ!

(荒木飛呂彦『ジョジョの奇妙な冒険 Part6 ストーンオーシャン』69: 113, 集英社, 2001 年)

4. 対照法の相乗効果

以上を要約すると、典型的な対照法は、漠然とした事柄を伝達する上で、それと対照性をもつ事柄を引き合いに出すために言語的な共通構造を用いる表現であると言える。

1 節で言及したように、対照法は他の文彩と共起することがある。複数の文彩を同時に使用することができれば、より強い効果を生み出すことができるであろうことは想像できる。Harris et al. (2018: 160) によれば、どの文彩が結合するかの傾向は、その機能がどの程度一致するかの傾向と相関する。つまり、使用の動機が一致する文彩は共起するということである (Harris 2013: 595)。

本節では、対照法が他の文彩と共起する例の分析にもとづいて、それぞれの文彩が担う機能の相乗効果について考察する。3 節で述べたように、対照法は 2 つの語句のあいだの対照性を生み出す。この機能が必要となるのは伝えたい事柄が漠然としている場合であるが、そのような状況として、ある表現が何と対比されているかが十分明らかでない場合 (4.1 節) や、使用したい表現とその類義表現が漠然と同じ意味で理解されているという場合 (4.2 節) が挙げられる。また対照法は複雑で漠然とした意味をときほぐし、理解しやすいかたちに整理するはたらきを担う。字義通りの意味を変更するトロープが使用される際に、意味の劇的な変化に関する受信者の理解を助けるためにこの機能が利用されることがある。4.3 節では隠喩と直喩が、4.4 節では逆説が対照法と結合する例を考察する。

4.1. 堆積法

堆積法 (accumulation) とは「本質的には同じことを別の言葉で連続して述べる」

(Quinn (2010 [1982]: 65) 表現であり、例えば (27) のような表現が挙げられる。

(27) Shallow: I will not excuse you. You shall not be excused. Excuses shall not be admitted. There is no excuse shall serve. You shall not be excused. [シャロー：なんとしてもなりませんぞ。不承知でござるな。ああ、言訳など聞く耳もたぬ。なりませんとも、なりませんとも]

(Shakespeare, *Henry IV*, Part 2, 5.1.5; Folger Shakespeare Library; 2024 年 6 月 21 日閲覧；訳は中野好夫訳『ヘンリー四世：第二部』：162, 岩波書店, 1970 年; Quinn 2010 [1982]: 66)

堆積法の主な機能はある事柄を強調することであるため、対照法と機能が似ており、堆積法と対照法は同時に使われることも多い。(27) のような類義表現で同じ事をくり返す堆積法とは異なり、対照法を用いた堆積法ではあることを断定して反対のことを否定する (Quinn 2010 [1982]: 67)。ある事柄の裏側まであえて述べることで、印象深く、分かりやすい表現になることがある (Bain 1890: 196)。例えば (28) に関して、「ちいさな」子猫だと言え、大きくも、中くらいでもないことは含意されるが、あえてこの含意を対照法で言語化することで、子猫の小ささを印象深く表現している。

(28) となりの うちには こねこが いました。

この こねこは、おおきな こねこでは ありませんでした。

ちゅうくらいの こねこでも ありませんでした。

ほんの ちいさな こねこでした。

そして この こねこは、とても いたずらな こねこでした。

(バーナディン・クック (文) レミイ・チャーリップ (絵) まさき るりこ (訳)『いたずらこねこ』福音館書店, 1964 年)

通常の堆積法では、(27) のように、くり返しの回数は恣意的に決められるのに対して、断定と反対の否定を対比すると「たった 2 つの項で完全性の感覚が生じる」 (Quinn 2010 [1982]: 67)。(29) の 2 文は論理的には同値であるとは言えないが、平行法によって同じ事実の表と裏を述べているような印象が生じ、勉強すると何をしたいか分かるということの意義が、勉強しないと何をしたいか分からないということとの対比によって強調される。

- (29) 勉強するから、何をしたいか分かる。勉強しないから、何をしたいか分からない。(北野武; 『はっとさせられる言葉たち』 2020 年 4 月 21 日; 2024 年 6 月 21 日閲覧)

4.2. 類義区別

伝えたい内容をはっきりと際立たせ、他の意味と混同されないようにすることで表現は明晰になる。ある語の意味は、別の語の意味との差によって決まるので、対照性 (contrast) を作り出して意味の差を強調すると、ある語の意味の正確な範囲を定めることができる。対照法は、言いたいことと対照的なことを挙げ、それとは違うのだと述べることで受信者の認識を整理し、言いたいことを他の事柄から分離して強調する。この機能が、**類義区別** (paradiastole) に利用されることがある。

堆積法が、対照的なものを比較してその同一性を強調するのに対して、類義区別は、似通ったものを比較してその差異を強調する (佐藤・佐々木・松尾 2006: 388)。例えば (30) のように、「愛」と「恋」は類義語であると言えるが、(31) はこの類義語の差異を強調する類義区別の表現であると言える。

- (30) 太郎は花子を愛していたし、彼女も彼に恋をしていた。
 (31) 太郎は花子を愛していた、しかし彼女のほうは彼に恋をしていたのである。
 (32) 彼は損得によって決断したのではない、愛憎によって動いたのだ。
 (佐藤 1981: 116; 下線部は原文では二重括弧)

(31) は「A は B {を/に} C していた」という平行法の構造をもつため、対照法の例でもある。類義区別に対照法を用いて、混同されやすい2つの類似概念を分離することはよくある。対照法は、通常理解されている類義語や対義語の意味関係を談話やテキストのなかで再規定する効果をもつことがある。例えば (32) では「愛」と「憎」という対義語がセットになり、「損得」と対照されることによって、「愛」と「憎」には感情という共通点があることが暗示される。この例は、類義語を対義語のように見せる (31) の類義区別とは対照的に、対義語を類義語のように見せる点で興味深い。

- (33) Emma: I love you, Dexter. So much. I just *don't like* you anymore. I'm sorry.
 [愛してる、デクスター。とても。もうただ楽しいだけではいけない]

の。ごめんなさい。]

(Directed by Lone Scherfig, *One Day*, Random House Films, 2011)

- (34) 1人でも成立するのが恋 2人必要なのが愛
 理由作って会うのが恋 理由もなく会えるのが愛
 伝え方に悩むのが恋 伝えなくとも伝わるのが愛
奪うのが恋 与えるのが愛
一瞬で生まれるのが恋 一生育むのが愛
すぐに消えるのが恋 ずっと残るのが愛
 恋も愛も大切にしたい。

(X@i_baku2020, 2021 年 6 月 23 日; 2024 年 6 月 21 日閲覧)

- (35) 恋が着せ、愛が脱がせる。(真木準 (制作) 広告, 伊勢丹, 1989 年)

対照法による共通点の明示は、似通ったものの比較の着眼点を示すことがある。例えば (33) は友人であったデクスターに愛を告げる際、like の否定を起点極、love を目標極として際立たせることで、愛の深さを強調している。(34) は平行法、押韻、結句反復など、音韻、語彙、文法レベルの反復による対照法を用いて、恋と愛を比較する着眼点を多数提示している。(35) は対照法だけでなく換喩も結合した類義区別の例である。用いられている平行法は「A が B せる」という構造で比較的シンプルであるが、ここでは「恋」と「愛」がそれぞれ、恋している人、愛している人を換喩的に表しており、恋と愛の違いが、人が服を着る（恋をしている人は服を着飾る）ことと服を脱ぐ（愛し合うようになると服を脱ぐ）ことの違いとして対照されている。恋と愛の概念的な対照性が、ここでは衣服にまつわる身体行為の対照性という観点から具体化されており、服飾品を扱う百貨店のキャッチコピーとしての効果を生み出している。

4.3. 隠喩と直喩

隠喩 (metaphor) は、類似性にもとづいて指示対象が属する概念領域を別の概念領域に引き継ぐ文彩 (Wales 2014: 265) であるが、両者をつなぐ類似性が分かりにくい場合には、2 つの概念の比較の着眼点を際立たせる対照法の機能が役立つ。例えば (36) では対照法を用いて「和食」が「引き算」に、「洋食」が「足し算」に喩えられているが、この隠喩はそれだけでは何が類似しているのか伝わりにくい。続くテキストではさらに対照法を用いて「和食」を「水墨画」に、「洋食」を「油絵」に喩える上で、異なる概念領域の指示対象をもつ語句を含む比較構文 (小松原 2023) である直喩 (simile) が用いられている。この対照法は、和食と洋

起点極として引き合いに出すことで、「慢性の寿命」という新たな隠喩的概念が目標極として提示され、生の持続性に関する独自の見方が表現されている。

- (37) 「姉さんもこんなじゃ何時（いつ）ああなるか分らないよ、健ちゃん」
彼女は仏壇から眼を放して健三を見た。健三はわざとその視線を避けた。

心細い事を口にしながら腹の中では決して死ぬと思っていない彼女の言い草には、世間並（せけんなみ）の年寄と少し趣（おもむき）を異（こと）にしている所があった。慢性の病気が何時迄（いつまで）も継続するように、慢性の寿命が又何時迄も継続するだろうと彼女には見えたのである。

（夏目漱石「道草」68『漱石全集第十三巻』：3-230, p. 151-152, 岩波書店, 1957年；新字・新仮名遣いに修正；佐藤 1981: 126）

隠喩は語に新しい意味を与える文彩であるが、その意味が慣習化して、語の多義性 (polysemy) に組み込まれることがよくある (靱山 2021: Ch. 4)。隠喩にもとづく語の多義性は言葉遊びの資源になる。(8) の「想いをぶつけても」、(9) の「チームワークは固めても」、(10) の「心は乱れても」の下線部は慣習化した隠喩であるが、同じ動詞が隠喩の意味と字義通りの意味で反復されており、形式的には対照法であると言えるが、意味的には明確な対照性があるわけではない。このような見せかけの対照法を用いた言葉遊びによる広告の例としては、さらに(38) が挙げられる。これらや (24) が示すように、対照法は洒落を用いた言葉遊びを分かりやすく示す手段として使用されることがある。

- (38) 「待って待って！待って待って待って！」[バスが発券する]
世間は冷たいが N ウォームは温かい
[くしゃみをした勢いで会議資料を破り、同僚から白い目で見られる]
視線は冷たいが N ウォームは温かい
「ただいま！」[妻と娘が無視する]
家族は冷たいが N ウォームは温かい

（CM「N ウォーム」ニトリ, 2016年）

4.4. 逆説

堆積法の対照法は、ある事柄と、その反対の事柄の否定を述べることで、完全

性の感覚を生じさせる効果をもつ。(39) や (40) はこの点で対照法を用いた堆積法の例であると言えるが、4.1 節でみた例とは異なり、目標極が常識から逸脱するような主張であるため、矛盾したような言い方で真実の一端を示す文彩 (Corbett and Connors 1999: 408) である逆説 (paradox) の例でもあると言える。例えば (39) では、対照法なしに、人は誕生を嘆くべきだということだけが提示されても逆説的な意味は伝わりにくい。ここでは、人は死を嘆くべきだという常識的な見方を起点極として示すことで、人は生を嘆くべきだ (すなわち、生きるというのは辛いことだ) という目標極の真実味を強調している。

(39) A man should be mourned at his *birth*, not at his *death*. [人はその死を嘆くのではなく、その生を嘆くべきである。]

(Charles-Louis de Montesquieu; Quinn 2010 [1982]: 68)

(40) Nous plaisons plus souvent dans le commerce de la vie par nos *défauts*, que par nos *bonnes qualités*. [世間の付き合いでは、われわれは長所よりも短所によって人の気に入られることが多い。]

(François de La Rochefoucauld, *Reflexionou sentences et maximes morales*, 90, p. 34, 5th edition, chez Claude Barbin, 1678; 訳は二宮フサ (訳)『ラ・ロシュフコー箴言集』, p. 35, 岩波書店, 1989 年; 香西 1993: 22)

対照法は意外性のある主張を理解しやすく、名句らしく整え、発信者が機知に富んだ人物であるように見せる効果をもつ (Corbett and Connors 1999: 383) ことがある。(39) や (40) の対照法は、モンテスキューやラ・ロシュフコーという人物を異質なすぐれた存在として描き出す効果をもつと言える。

風刺に用いられる逆説が対照法の形式をとることもある (Wales 2011: 25)。Harris and Marco (2017: 211) は (41) のツイートが簡潔で要を得た、説得推論の論証であると述べている。この対照法は、女性は X でないと攻撃され、X だと攻撃されるという、X が攻撃の原因だとすれば両立し得ない 2 つの状況の対照性を強調している。この逆説は、X (すなわちヒジャブを着ること) が攻撃の原因となっているわけではなく、女性はつねに攻撃されるのだという結論を導く。この対照法による逆説は、問題はヒジャブを着るという女性の行動にあるのではなく、女性の行動を支配しようとする男性の行動にあるのだという批判の説得力を強める効果をもつと言える。

(41) Women in *Middle East* attacked for *not wearing* hijab. Women in the *West*

attacked for *wearing* hijab. It's almost like women aren't the problem. [中東の女性はヒジャブを着ていないと攻撃される。西欧の女性はヒジャブを着ていると攻撃される。問題は女性ではないみたいだ。]

(X@omarsakrpoet, 2016 年 12 月 4 日; 2024 年 6 月 21 日閲覧; Harris and Marco 2017: 211)

4.5. 相乗効果の要約

以上のように、対照法の事例には少なくとも、堆積法、類義区別、隠喩、直喩、逆説と共起するものが存在する。本節の冒頭で述べたように、共起する文彩は、その使用動機に共通点があると言われている (Harris 2013)。対照法を使用する主な理由は、言わんとすることが何と対比されており、何から区別すべきかを示すことで、伝えたい意味を明確化し、強調する必要があるからだと言えるが、この使用動機は、以下に述べるように共起する他の文彩の使用動機と共通するところがある。

第 1 に、堆積法の使用を動機づけるのは、ある事柄を伝えるために同じ内容を異なる表現で念押しすることであると言えるが、対照法はある事柄の裏側を否定し、それとの対比で表側を念押しの的に断定することに貢献する。第 2 に、類義区別の使用動機は、類似した意味が混同されないようにすることであると言える。対照法と類義累積が共起する事例では、混同されやすい意味を、伝えたい意味と比較することで分離し、後者に焦点を当てることに寄与している。第 3 に、隠喩や直喩は、ある概念を、それと共通点のある別の概念の観点から捉えるために用いられる。対照法は 2 つの概念をある基準にもとづいて比較し、両者の類似性を際立たせる上で有用である。第 4 に、逆説が用いられるのは、一見すると突飛にみえる事柄の真実性を表現するためであると言えるが、対照法は慣習的にそうだと思われる事柄と逆説的な真理を対比することで、逆説的に伝達したい事柄の真実性を強調するはたらきを担っている。以上のように、本節の分析結果は、Harris (2013) の仮説を支持するものであったと言える。

5. おわりに

文彩は、言語の通常の方法から逸脱する技術を用いた表現である。文彩は大きく分けるとトロープとスキームに分かれるが、スキームの研究はその重要性に比して進んでいない。本稿はスキームの 1 つである対照法の基本的な形式と意味を整理した上で、事例にもとづいて対照法の表現効果の記述を行った。対照法は、構文の共通構造によって、意味の対照性を示す文彩である。たいていの場合、比

較される2つの概念のうちの一方が伝えたい目標極で、もう一方はそれを強調するために引き合いに出される起点極として機能する。対照法は構造的にも機能的にも汎用性があるため、他の文彩との組み合わせで使用されることが多い。対照法の事例には、堆積法のなかで完全性の感覚を与える効果、類義区別において概念を分離して認識させる効果、隠喩や直喩において独創的な類似性を際立たせる効果、逆説において2つの事柄の矛盾を提示する効果をもつものがある。この点で、対照法はさまざまな文彩との組み合わせで、レトリックの効果を強める機能をもつ基礎的な文彩であると言える。

対照法が多種多様なコンテキストで柔軟に使用できるのは、対照法が利用する構文構造が比較的単純で、意味的にも大きな逸脱がないという点にあると考えられる。対照法は形式的に過剰な均衡性をもち、あまりにも整いすぎているという点ではたしかに逸脱的である。形式の均衡は意味の対照性を生み出し、比較される事柄の一方だけに注意を集める効果をもつ。この効果は、本稿で取りあげた例のなかでは、堆積法、類義区別、隠喩、直喩、逆説といった意味の文彩の特徴と衝突することはなく、むしろ他の文彩の効果を強めるはたらきを担っていた。これらの文彩の相乗効果に共通するのは、形式を整えることによって、意味を強めるという点である。この対照法による相乗効果に関する分析結果は、形式の文彩であるスキームが、意味の文彩であるトロープとの組み合わせで相乗効果を発揮することを示唆している。

参考文献

- Bain, Alexander. 1890. *English Composition and Rhetoric Part 1: Intellectual Elements of Style* (Enlarged edition). New York: D. Appleton and Company.
- Burgers, Christian, Margot Van Mulken, and Peter Jan Schellens. 2011. Finding Irony: An Introduction of the Verbal Irony Procedure (VIP). *Metaphor and Symbol* 26(3): 186–205.
- Cockcroft, Robert, and Susan M. Cockcroft. 2014. *Persuading People: An Introduction to Rhetoric* (3rd edition). Basingstoke: Palgrave Macmillan.
- Corbett, Edward P. J., and Robert J. Connors. 1999. *Classical Rhetoric for the Modern Student* (4th edition). Oxford: Oxford University Press.
- Dancygier, Barbara, and Eve Sweetser. 2014. *Figurative Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fahnestock, Jeanne. 1999. *Rhetorical Figures in Science*. Oxford: Oxford University Press.

- Green, Nancy L. 2023. The Use of Antithesis and Other Contrastive Relations in Argumentation. *Argument & Computation* 14(1): 1–16.
- Harris, Randy. 2013. Figural Logic in Gregor Mendel's 'Experiments on Plant Hybrids'. *Philosophy & Rhetoric* 46(4): 570–602.
- Harris, Randy Allen, and Chrysanne Di Marco. 2017. Rhetorical Figures, Arguments, Computation. *Argument & Computation* 8(3): 211–231.
- Harris, Randy Allen, Chrysanne Di Marco, Sebastian Ruan, and Cliff O'Reilly. 2018. An Annotation Scheme for Rhetorical Figures. *Argument & Computation* 9(2): 155–175.
- Israel, Michael, Jennifer Riddle Harding, and Vera Tobin. 2004. On Simile. In Achard, Michel and Kemmer, Suzanne (eds.), *Language, Culture, and Mind*, 123–135. Stanford: CSLI Publications.
- Kövecses, Zoltán. 2010. *Metaphor: A Practical Introduction* (2nd edition). Oxford: Oxford University Press.
- Lakoff, George. 1993. The Contemporary Theory of Metaphor. In Ortony, Andrew (ed.), *Metaphor and Thought* (2nd edition), 202–251. Cambridge: Cambridge University Press.
- Lakoff, George, and Mark Johnson. 1980. *Metaphors We Live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- Leech, Geoffrey N. 1969. *A Linguistic Guide to English Poetry*. London: Longman.
- Leith, Sam. 2011. *You Talkin' to Me?: Rhetoric from Aristotle to Obama*. London: Profile Books.
- Littlemore, Jeannette. 2015. *Metonymy: Hidden Shortcuts in Language, Thought and Communication*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Mann, William C, and Sandra A Thompson. 1987. Antithesis: a Study in Clause Combining and Discourse Structure. *ISI Report Series: ISI/RS-87-171*. University of Southern California, Information Sciences Institute.
- Mann, William C, and Sandra A Thompson. 1988. Rhetorical Structure Theory: Toward a Functional Theory of Text Organization. *Text* 8(3): 243–281.
- Mayoral, José Antonio. 2001. Antithesis. In Thomas O. Sloane (ed.), *Encyclopedia of Rhetoric*, 27–28. Oxford: Oxford University Press.
- Meyer, Michel. 2017. *What Is Rhetoric?* Oxford: Oxford University Press.
- Panther, Klaus-Uwe and Linda Thornburg. 1999. The Potentiality for Actuality metonymy in English and Hungarian. In Panther, Klaus-Uwe and Günter Radden

- (eds.), *Metonymy in Language and Thought*, 333–357. Amsterdam: John Benjamins.
- Quinn, Arthur. 2010 [1982]. *Figures of Speech: 60 Ways to Turn a Phrase*. New York: Routledge.
- Quinn, Arthur, and Lyon Rathbun. 1996. Antithesis. In Theresa Enos (ed.), *Encyclopedia of Rhetoric and Composition: Communication from Ancient Times to the Information Age*, 13–14. New York: Routledge.
- Seto, Ken-ichi. 1999. Distinguishing Metonymy from Synecdoche. Metonymy In Panther, Klaus-Uwe and Günter Radden (eds.), *Metonymy in Language and Thought*, 91–120. Amsterdam: John Benjamins.
- Wales, Katie. 2014. *A Dictionary of Stylistics* (3rd edition). New York: Routledge.
- Wilson, Deirdre, and Dan Sperber. 1992. On Verbal Irony. *Lingua* 87(1): 53–76.
- アリストテレス. 1968. 「アレクサンドロスに贈る弁論術」『弁論術・アレクサンドロスに贈る弁論術—アリストテレス全集 16』斎藤忍随・岩田靖夫訳. 東京: 岩波書店.
- 香西秀信. 1993. 「逆説のレトリック」『日本語と日本文学』19: 21–29. 筑波大学国語国文学会.
- 小松原哲太. 2018. 「修辭的効果をもたらすカテゴリー化—日本語における類の提喻の機能的多様性」『認知言語学研究』3: 23–39. 日本認知言語学会
- 小松原哲太. 2023. 「比喩の構文としての直喩—英語における同等性と類似性の文法」『認知言語学論考』17: 117–153. 東京: ひつじ書房.
- 小松原哲太・田丸歩実 (2019) 「日本語における直喩の写像方略の類型」『日本認知言語学会大会論文集』 19: 37–49. 日本認知言語学会.
- 佐藤信夫. 1978. 『レトリック感覚』東京: 講談社.
- 佐藤信夫. 1981. 『レトリック認識』東京: 講談社.
- 佐藤信夫・佐々木健一・松尾大. 2006. 『レトリック事典』東京: 大修館書店
- 瀬戸賢一・宮畑一範・小倉雅明. 2022. 『「例解」現代レトリック事典』東京: 大修館書店.
- 土屋智行. 2020. 『言語と慣習性—ことわざ・慣用表現とその拡張用法の実態』東京: ひつじ書房.
- 鍋島弘治朗. 2016. 『メタファーと身体性』 東京: ひつじ書房.
- 野内良三. 2002. 『レトリック入門—修辭と論証』京都: 世界思想社.
- 野内良三. 2007. 『レトリックのすすめ』東京: 大修館書店
- 榎山洋介. 2021. 『日本語の多義語研究—認知言語学の視点から』東京: 大修館書店.

- 山梨正明. 2009. 『認知構文論 ―文法のゲシュタルト性』 東京: 大修館書店.
- 山梨正明. 2012. 『認知意味論研究』 東京: 研究社.

Rhetorical Synergy through Antithesis: Simple Constructions Producing Complex Pragmatic Effects

Tetsuta Komatsubara

Figurative language relies on rhetorical techniques that deviate artfully from conventional language use. It is traditionally divided into two types: tropes and schemes. While tropes, such as metaphors, which involve conceptual deviations, are broadly recognized for their influence on emotion, thought, and action, schemes, which involve structural deviations, have received much less attention in linguistic studies. This paper focused on antithesis, a scheme, as a basic device for generating rhetorical synergy, especially when combined with other rhetorical figures. Based on the analysis of numerous real-world examples, antitheses can be used alongside at least five other rhetorical figures: accumulation, paradiastole, metaphor, simile, and paradox. Antithesis effectively juxtaposes opposing ideas through parallel lexical structures. Although its grammatical construction is simple, its effect is powerful, as it highlights the target with a standard. The basic function of antitheses is to emphasize meaning through structured form, often reinforcing other rhetorical functions. These findings imply that, more broadly, conceptual figures can produce rhetorical synergy when combined with structural figures.